

りっぷる Ripple

第210号
6
20. .22

エスコープ大阪機関紙

表紙

・未来に向けて、産地づくりをすすめよう

P2

・どんな未来を作りたいですか？ そのために今やるべきこと

P3

・活動報告 GMナタネ自生調査／50周年事業進捗報告／新型コロナウイルス感染症流行下での私たちの活動
・職員紹介 ・生産者紹介

P4

・エスコープ大阪2020年度方針
・山村瑞子さんの詩
・理事会報告・おたよりネット・編集後記



未来に向けて、 産地づくりをすすめよう

物事を決める中心に 女性がいた

1970年当時、国や県の指導のもと生産物の外見上の品質向上や多収穫を目的に、化学肥料、化学農薬、除草剤を多用し農協へ集荷する共同販売(以下、共販体制)がすすめられていました。梅や柿の生産者(有)王隠堂農園(奈良県五條市)はこの指示に疑問をもち、体に悪影響のある栽培方法ではなく有機的栽培を目指そうと考え始めていました。そんな時偶然出会ったのが、設立して数年の泉北生協(現在のエスコープ大阪)の組合員でした。王隠堂誠海さんに、農家を継いで間もなかった当時のお話を伺いました。

(聞き手:理事長 北辻美樹)

北辻 王隠堂農園とは、出会ってから45年以上になり、エスコープ大阪の歴史とともに一緒に歩んできました。泉北生協の組合員と出会った時や取り組み開始当時のことで印象に残っていることはありますか。

王隠堂 20代の頃、和歌山県下津の農薬事故や有吉佐和子さんの著書『複合汚染』に感化され、奈良在住の学者とも付き合うようになり王隠堂農園として農薬を減らすことを決めました。そのため共販体制から外れるので農協へは出荷できず、収穫した柿や梅、みかんなどを堺市の直売所や入居が始まったばかりの泉北ニュータウンの団地に売りに行っていました。その日も団地に柿を売りに行ったら、集会所で30人ほどが集まって何かしていました。私に「どこで作ってるの?」と声をかけてくれたのが始まりです。まもなく3〜4人の組合員理事が畑に来て、泉北生協に直接買ってもらうための話し合いが始まりました。そこで初めて消費者と産地を結びつける「産直」という言葉を聞きまし

た。情報公開を徹底する「顔の見える関係」について熱心に話をされました。しかし組合員の言う「顔の見える関係」という本当の意味がわかったのは、3年ぐらい経ってからだと思います。そして驚いたのが女性の活発さです。畑のある私たちの村周辺はまだまだ男社会で、女性が主義主張をすることは少ない時代でした。話し合いをすすめる中で、組合員の女性が物事を決める場にいることを母がとても喜んでいたので覚えています。組合員が来てくれると村の女性も出てきて、私たちによい刺激を与えてくれました。

北辻 泉北生協と産直を開始することで、共販体制をとる農家と村の中で対立になったと聞いています。それをどう乗り越え今につながられたのでしょうか。

王隠堂 地域の農家が一緒に共販体制でやっていこうとするときに、我々は栽培方法に異を唱え飛び出したわけですから、相当な反発がありました。いわゆる村八分にされました。それでも信念をもってやれたのは、泉北生協の組合員の強い後押しと協力があつたからです。化学肥料や農薬を使用しない栽培方法で、栽培履歴を常に公開することを要望する代わりに、当時の柿の等級は14段階に分けられていたのを、ある程度は一緒にしていいと階級をゆるくし、収穫できたものはすべて買い取ると言ってくれました。ともに産地の課題を解決しようとしてくれたのです。そして(当時は別組織であった)関東の生活クラブを紹介してくれました。販路

も拡大し産直の大きな基盤ができ、新たに志を同じくする地域の農家数名と共同事業化を目指して、農業生産法人(有)王隠堂農園を設立し、農業団体として大きく成長することにつながりました。

もはや食べるだけでは 続かない

北辻 王隠堂農園の農業生産法人設立に泉北生協も大きく関わっていたのですね。これからも顔の見える関係とともに産地を含む社会の課題解決をすすめる仲間として継続していくには、産地で現在課題となっている就農者の高齢化、人手不足を解決しなければ私たちが望む安心で安全な食料の確保や国内自給率を高めて食べ続けることはできません。王隠堂農園では次世代への引継ぎも進めているのですが、私たちが改め産地を知り、今ある課題を解決するための行動を起こすことが必要だと感じています。

王隠堂 一週間くらい泊まりがけで産地に来てみてはどうでしょう。産地の抱える課題がすぐわかってもらえらると思います。カリキュラムを組んで、畑の作業と産地を知る講座ができると思います。農業は昔のように徒弟性ではやっていけない時代です。どんどん新しい人が農業に興味を持ち、関わってくれることで、私たちの地域(村)の歴史を存続させることができます。出会ってから45年経った今、生協と付き合えて本当に良かったと思っています。関西の「生産する消費者」と一緒に、次の10年に向け関係を作っていきたいです。

北辻 これからは食べることに加えて農業に興味を持つ人を発掘したり産地につなぐことにもしつかり取り組みます。産地づくりを一緒にすすめていきましょ。



農業生産法人(有)王隠堂農園
代表取締役

王隠堂 誠海さん

どんな未来をつくりたいですか？ そのために今やるべきこと



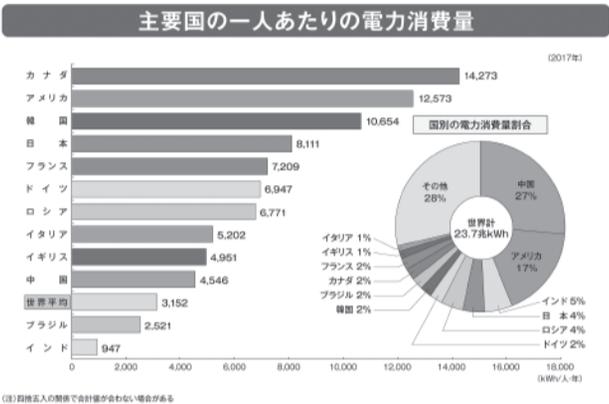
経済的効果が優先され、効率化と迅速化重視による農薬や化学物質の多用、プラスチックの大量生産・大量廃棄が止まりません。何億年もかけて蓄積された石炭や石油などの化石燃料を、この100年ほどの間に大量に消費し、CO₂をはじめとした温室効果ガスの排出が急激に増加し、地球の環境が危機的状況に陥っています。また発電時にCO₂を排出しないとして国が推進している原子力発電は、チェルノブイリ原発事故（1986年）と東京電力福島第一原発事故（2011年）により、人間には制御できないことが証明されています。

国の対策を待つだけでなく、私たちが早急に行えることもたくさんあります。「生活クラブでんき」もそのひとつ。再生可能エネルギーを推進し脱原発とCO₂削減をめざすだけでなく、経済のあり方、社会のあり方を変える取り組みです。

FEC自給をめざす活動

私たちが方針に掲げる「FEC自給ネットワーク」は、経済評論家の内橋克人氏が提唱している、食（Foods）、エネルギー（Energy）、ケア（Care）医療・介護・福祉）をできるだけ地域内で自給することが、コミュニティの生存条件を強くし、雇用を生み出し、地域の自立につながるという考え方に基づく構想です。内橋氏は弱肉強食の市場原理至上主義が地域社会の衰退や貧困、社会の分断をもたらしてきたことに警鐘を鳴らし、「人と人とが共生する経済」への転換が必要であると訴えています。

私たちはこれまで原材料や生産方法が明らかな安心できる食材をつくり、食料の国内自給率を上げることがめざしてきました。そして、安心して暮らせるように、地域に根ざした福祉と組合員同士のたすけあいや、子育て・介護の支援活動をおこなってきました。そして新たに「エネルギー」を自給する暮らしと地域づくりをめざしています。



(図1) 出典：原子力・エネルギー図画集

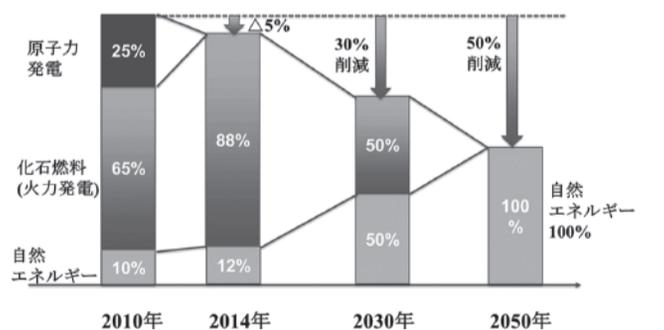
原発から再生可能エネルギーへの転換

福島第一原発は廃炉が決定していますが、メルトダウンした核燃料は未だどこにあるのかさえもわからない状況です。冷却のために発生する汚染水はALPS等で浄化処理したタンクに貯蔵していますが増え続けるばかりです。ALPSはトリチウムを除去できないので環境中に放出することができません。また除去できるはずのストロニウム90、ルテニウム106、ヨウ素129などが処理しきれず基準値を超えていることもわかりました。除染で発生した膨大な量の汚染土も最終的な行き場が定まらないまま、全国の道路や農地造成などの公共事業に再利用することが決定されました。避難指示区域の指定が解除となるも戻れない避難者は多く、助成金を打ち切られて経済的困窮に陥っています。事故の影響は収束の気配もないまま発令された原子力緊急事態宣言はいまだに撤回されていません。

原発は膨大なエネルギーを効率よく生み出しますが、人間の生死に関わる危険をはらんでいます。人間がコントロールできない原発のような巨大システムに依存しないことが大切です。日本の電力消費量は、国別に見ても一人あたりに換算しても、世界の中で上位であり、減らしていけないといけません（図1）。

今ある省エネルギー技術の急速な普及が必要エネルギーを半減できます。同時に再生可能エネルギーを飛躍的に拡大することで、2050年には再生可能エネルギー100%の社会が可能です（図2）。世界のエネルギーの潮流はすでに再生可能エネルギーにシフトしています。量産化が進むにつれて発電コストの低下と技術革新が進んでいます。

ALPS：多核種除去設備と呼ばれる除去設備で、トリチウム以外の62種類の放射性物質を取り除くことができる。



(図2) 出典：認定NPO法人環境エネルギー政策研究所

「生活クラブでんき」は、エネルギーとしての消費材

チェルノブイリ事故により各地で脱原発運動が起こり、節電の意識が高まりました。1995年に発電事業が自由化され、再生可能エネルギーをつくることで脱原発をすすめることができるようになりました。そして小売り事業が

段階的に自由化され2016年の全面自由化により、一般家庭でも再生可能エネルギーを選んで使うことができるようになり、2014年から立ち上げていた「株生活クラブエナジー」により、電気的共同購入をスタートさせました。減農薬・添加物削減・NON-GM食材、化学物質削減のためのせっけんなどに続き、「生活クラブでんき」が消費材の仲間入りをしたのです。それから4年が経過し、1万5千人の組合員が利用しています。電源構成は再生可能エネルギー割合が高く、2019年実績で63.8%を達成し、近い将来に100%をめざしています。食べ物と同じように、どこで誰がどんな思いでつくった再生可能エネルギーなのかを明らかに。生活クラブでんき」を利用し、子どもたちの未来のために再生可能エネルギー中心の持続可能な未来社会を共につくっていきましょう。

想いを行動に！ 「生活クラブでんき」 キャンペーン実施中

◆期間：2020年9月6日（日）までにご契約いただいた方全員にソーラーLEDキーホルダー（右写真）プレゼント！



さらに今ならエスコープ大阪
独自特典1000円ポイントプレゼント！
1ポイント=1円として消費材代金に使えます。

◆契約申し込みが便利になりました

- ◎その1：Web申し込みが可能に！
 - ◎その2：クレジットカード決済スタート！
- Webで契約申込をした方のみクレジットカード決済を選べます。すでに口座引き落とし利用中の方もWebからクレジットカード決済に変更できます。



←生活クラブエナジーのホームページからお申し込みください。

大阪市南・中河内地域委員会
GMナタネ自生調査
 4月9日(木)
 近鉄奈良線若江岩田駅
 付近(東大阪市岩田町)

大阪市南・中河内地域パートナー
 成瀬 智子



**GMナタネの自生調査活動に
初めて参加しました!**

GM(遺伝子組み換え)ナタネの自生調査に初めて参加しました。調査に関わるまで、春に咲いている黄色い小さな花は「菜の花」だと思っていました。しかし、菜の花はアブラナとセイヨウカラシナ、セイヨウアブラナに分類され、同じように見えて花のつき方や葉の形など違いがあることを初めて知りまし

た。検査は専用のキットを使い、葉の先端部を細かくちぎって、水となじませて、試験紙に付けるとすぐに結果が出ました。調査と聞くと難しく複雑な作業が必要かと思いましたが、自宅で簡単におこなうことができました。今回私が調査したナタネはGMではありませんでした。港の近くの地域などでは、海外から輸入された貨物やコンテナなどにGMナタネの種子が付着し、輸送

される途中にこぼれ落ちてアスファルトのすきまなどのわずかな土や歩道の街路樹の植え込みで自生したり、その種子がまた荷物に付いて内陸へどんどん運ばれて自生が広がっていくそうです。

理事会
50周年事業進捗報告
 理事長 北辻 美樹

**すすめています!
50周年事業**



50周年事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で当初の予定を調整しながらすすめているものもあります。進捗状況を報告します。

南海バスのラッピング広告は予定通り完成し5月1日より10台走り出しました! 見かけた方もいるのではないのでしょうか。パステルピンクのベースがよく映えて目立ちます。そして消費材が大きく写真でラッピングされていて、皆さんも見かけたらきっと「いつも私が食べているものだ!」とうれしくなると思います。ぜひ写真を撮りSNSで発信したりして50周年を一緒に盛り上げてください。

未来に残す大切なメッセージとして記念誌は、理事6名と職員1名、計7名の記念誌チームで作成をすすめています。その中で、これまでの主な生協の

には時間がかかりそうです。政府の緊急事態宣言や自粛要請が解除されても活動は3密(密閉・密集・密接)を避けたり、予防対策を講じてすすめていくこととなります。自粛要請中でも私たちにできる組合員活動のかたちを工夫し、ひとりでも多くの組合員が活動に関われるような方法を理事会、地域委員会ですすめていきます。

例えば家にある食品の添加物や国産の原材料がどれだけ使われているか調査したり、せっけん掃除体験、テーマを持ったレシビ提案、試食報告などなど。家でできる調査、体験を組合員同士で共有できるようになかなかたちを考

えています。その時は皆さんぜひ参加してください。

また、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、生協で消費材を利用する人や利用量が増えました。それにより、欠品も出ています。私たちの消費材は一般の販売品ではなく、生活クラブ独自の基準で作成、年間の利用予測量を生産者と共有することで生産者は年間供給に必要な原材料を確保しています。緊急時だけでなく、普段から必要な量を利用することで、生産体制(原料や設備)を確保することができ、欠品を回避することができます。

その中で驚いたのが、元理事長の山村さんは当時の活動仲間と、総代会を開催する6月にちなんだ「あじさい会」と名付け、毎年集まっておられることです。「活動は大変でしんどいこともあったけど、ともにがんばった一生の友人ができたことが何よりよかった」と話されていました。私も、こうありたいと思う社会について大いに議論できる活動仲間をつくり、組合員活動をすすめたいと思いました。

みなさんも、レッツ餃子パーティー!!



井原 伸晃(34歳)

エスコープ大阪在籍年数5年1ヵ月
 [共同購入フロア・堺支所]

エスコープ大阪に入協して今年で丸5年になります。6歳の息子と3歳の娘を持つ二児のパパ34歳です。趣味は食べるということ、子どもたちとゲームなどで遊ぶことです。

新型コロナウイルスの感染拡大でいろいろなところに影響が出ています。一日も早い終息を願いつつ、僕たち職員

も感染予防対策をしっかりとおこないながら、手洗い・うがいの徹底、また免疫力を上げるための健康な食生活を心がけてがんばっています。

先日エスコープ大阪50周年企画の餃子セットを注文し、自宅で息子と一緒に餃子作り挑戦しました。餃子の皮が60枚あったのですが、具を入れすぎたのか20枚ほど余らせてしまいました。そのせいで上がった餃子は具がたっぷりの食べ応え満点になりました! 家族全員、夕飯でペロリといただきました! 皆さんも自宅で手作り餃子、ぜひお試しください!

エスコープ大阪職員として今後がんばりますのでよろしくお願ひします!

また、年間2回予定している利用還元企画は、新型コロナウイルス感染症の影響で生協への利用が急増し、生産が追い付かずお届けできない消費材が出ているため、受注と生産体制が落ち着くまで取り組み時期をずらすことになりました。13週に取り組んだ『ジュシー手作り餃子セット』のような50周年セット企画での割引はできる範囲で続けていきます。

また、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、生協で消費材を利用する人や利用量が増えました。それにより、欠品も出ています。私たちの消費材は一般の販売品ではなく、生活クラブ独自の基準で作成、年間の利用予測量を生産者と共有することで生産者は年間供給に必要な原材料を確保しています。緊急時だけでなく、普段から必要な量を利用することで、生産体制(原料や設備)を確保することができ、欠品を回避することができます。

また、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、生協で消費材を利用する人や利用量が増えました。それにより、欠品も出ています。私たちの消費材は一般の販売品ではなく、生活クラブ独自の基準で作成、年間の利用予測量を生産者と共有することで生産者は年間供給に必要な原材料を確保しています。緊急時だけでなく、普段から必要な量を利用することで、生産体制(原料や設備)を確保することができ、欠品を回避することができます。

また、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、生協で消費材を利用する人や利用量が増えました。それにより、欠品も出ています。私たちの消費材は一般の販売品ではなく、生活クラブ独自の基準で作成、年間の利用予測量を生産者と共有することで生産者は年間供給に必要な原材料を確保しています。緊急時だけでなく、普段から必要な量を利用することで、生産体制(原料や設備)を確保することができ、欠品を回避することができます。

理事会
**新型コロナウイルス感染症
流行下での私たちの活動**

理事長 北辻 美樹

**みんなの力を合わせて
安心して暮らせる
社会をつくろう**

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、エスコープ大阪でも3月後半から組合員活動を自粛しており、今まで同様にすべての活動を再開する

には時間がかかりそうです。政府の緊急事態宣言や自粛要請が解除されても活動は3密(密閉・密集・密接)を避けたり、予防対策を講じてすすめていくこととなります。自粛要請中でも私たちにできる組合員活動のかたちを工夫し、ひとりでも多くの組合員が活動に関われるような方法を理事会、地域委員会ですすめていきます。

例えば家にある食品の添加物や国産の原材料がどれだけ使われているか調査したり、せっけん掃除体験、テーマを持ったレシビ提案、試食報告などなど。家でできる調査、体験を組合員同士で共有できるようになかなかたちを考

えています。その時は皆さんぜひ参加してください。

また、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、生協で消費材を利用する人や利用量が増えました。それにより、欠品も出ています。私たちの消費材は一般の販売品ではなく、生活クラブ独自の基準で作成、年間の利用予測量を生産者と共有することで生産者は年間供給に必要な原材料を確保しています。緊急時だけでなく、普段から必要な量を利用することで、生産体制(原料や設備)を確保することができ、欠品を回避することができます。

また、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、生協で消費材を利用する人や利用量が増えました。それにより、欠品も出ています。私たちの消費材は一般の販売品ではなく、生活クラブ独自の基準で作成、年間の利用予測量を生産者と共有することで生産者は年間供給に必要な原材料を確保しています。緊急時だけでなく、普段から必要な量を利用することで、生産体制(原料や設備)を確保することができ、欠品を回避することができます。

私たちの生産者

私たちの消費材の生産者を取り上げ、その人物像や消費材・生活クラブへの想いなどを紹介します。

<第9回> (有)奥羽 代表取締役 奥村 太郎さん



明治初期の創業以来150年続く(有)奥羽の5代目の奥村さんは、子どもの頃から身近に魚市場や水産加工場がある環境で育ちました。

父親である先代は、奥村さんが中学生の頃まで時代の流れもあり添加物を使っていましたが、生活クラブとの関わりから添加物を使わない本物の干物づくりに切り替えることになったそうです。父親が生活クラブの人と夢中になつて熱く議論していたのを子どもの頃の記憶にあり、「父が干物の作り方を転換してくれたおかげで、これからは自信を

もって続けていける」とのこと。「一般市場の抱える問題を組合員とともに解決して作ってきた本物の干物を、これからは時代の変化に合わせてより良いものに変えていく努力を惜しまない」と話されました。

東京の大学に進学し10年ほど好きなことをして来いと言われていた頃、東京に出張で来ていた父親に会った際に、「生活クラブは組合員が増え拡大している。今後会社を継ぐつもりなら、会社の規模を大きくするが、どう思うか」と問われ、会社が岐路に立っている状況に遊んでいる場合ではなく、なつてしまつたそうです。趣味を伺つと「晩酌のお酒かな? 昔はバンドを組んでですよ」と違った一面を知りました。

エスコープ大阪 2020年度方針



誰もが伝えられる^{※1}バイオサポ活動を推進して、さまざまな年代の健康に寄与したい！

今年の利用推進企画では、「食へ物」の視点だけではなく「食へ方」の視点を加え、バイオサポツールなどを使い誰もが伝えられるバイオサポ活動をすすめます。

エスコープ大阪の バイオサポ活動とは

2013年度より、理事、地域委員、職員を対象としたバイオサポ講座を、生活クラブ連合会から講師を招いて開催してきました。栄養の基礎知識と食の安全性について学ぶことに始まり、食事のバランスガイド（私たちが健康で暮らすために1日に「何を」「どれだけ」食べたいのか、料理の組み合わせと量を分かりやすくイラストで示したもの）の見方や、年代別の1日あたりの必要エネルギー量、また参加者から実際に食べたものを聞き取り、栄養バランスの良い理想の食へ方について学びました。理事や委員が学んだことをもとに、取り組み企画の消費材を素材と

してだけでなく栄養面や献立作りのヒントも伝える活動をすすめています。

地域委員会が伝える お米と豚肉の食へ方提案

今年度は消費材の利用推進企画の中で、地域委員会が^{※2}ピジョンフードであるお米と豚肉の食へ方をわかりやすく伝えていきます。最近では、糖質制限や偏ったダイエット情報、健康食品の台頭などで米離れがす



消費材推進企画の中でバイオサポ活動をしています

すんでいますが、炭水化物やたんぱく質、ミネラルを豊富に含む栄養価の高い食へ物です。豚肉は、たんぱく質とビタ

ミンB1が豊富に含まれ子どもから高齢者まで不可欠な食材ですが、脂質の摂り方やさまざまな年代に合う献立などの工夫が求められています。地域委員会のすすめるバイオサポ活動では、知識はきちんと学びますが、家庭での調理や実践はおおらかにをモットーに、仲間と一緒に楽しく豚肉と米の話をします。加えて、これからの世代に伝えていきたい食の未来について、課題や問題点も含め組合員の思いや考えを共有できる場としていきます。

組織担当常務理事
糸川 江里子

※1「バイオサポ」…生命を意味する「BIO」と「美」を掛け生命力あふれた健康な食生活をサポートしていくという意味の生活クラブの造語。

※2「ピジョンフード」…米・牛乳・鶏卵・畜肉・青果物を「ピジョンフード」と呼びます。「ピジョンフード」をおおせいで食へることで、国内自給率の向上、生態系の保護、食の安全性を追求します。次世代の子どもたちが安心して、健康に暮していく社会をめざします。

第13回 理事会報告 <5月8日>

【3月度決算報告】

●供給高 2億771万円(前年同月比110%)

●組合員数 18,855名(前月比-692)

*年度末で長期未利用組合員(不明組合員)646名のみなし脱退処理をおこないました。

●一人あたりの出資金 83,876円

【4月の放射能検査結果】

4月は連合消費材658検体、エスコープ大阪独自の消費材2検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①生活クラブ連合会・生活クラブ共済連 役員(理事)候補者推薦
- ②大阪府生協連 理事候補の推薦
- ③2020年度大阪府生協連 通常総代会代議員の選出
- ④日本生協連第70回通常総会およびコープ共済連 第12回通常総会の代議員の選出
- ⑤第31回生活クラブ連合会・第11回生活クラブ共済連 通常総会代議員選出

【協議事項】

- ①第54回通常総代会の開催方法
- ②2020年度エスコープ大阪総代会 議案書・巻末資料の最終確認

【報告承認事項】

- ①定款第6条2項組合員の加入について

おたよりネット

「rippる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

208号4面「山村さんの詩」を読んで

Aさん

山村さんは、私が「泉北生協」(エスコープ大阪の前身)に入った時の理事長さんです。『たとえば木綿の』の詩集を発行され、それを読んで心打たれたことを思い出しました。改めて本棚から出して再読しています。ぜひ連載されることを願います。

→50周年記念特集として、1年間連載を予定しています。

208号4面「食べる力を集めて自分たちの望む豚肉を食べてつなごう」を読んで

紙面モニター Kさん

CSFのニュースは見ていましたが、自分自身と直接関係がつかめなかったのであまり気にとめていませんでした。しかし(有)石井養豚センターが影響を受けていること、自分との関りがゼロではないことを再確認しました。お肉を食べてくれなかった子どもたちに、お肉のおいしさを気づかせてくれた豚肉、市販のウインナーを食べるとお腹を壊していた娘でも安心して食べられる加工食品を作ってくれるウインナークラブを守っていきたくと思いました。

編集後記

自粛生活が長く続き、普段のあたりまえが大きく変化しました。私にとっての一番の困難は人に会って話ができませんでした。メールや電話もありますがやはり顔の表情やその場の空気から読み取ることが対話するということだと改めて思いました。テレビ会議も何度か経験しましたが、通信状態によって少し会話がずれたりすると、いままで無意識に絶妙な間合いを見計らって会話を成立させていたんだと思いました。これからも対話の方法を模索し伝えあう努力をしていきたいです。(K)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/

50周年記念として初代組合員理事長(1973年～1982年在任)の山村瑞子さんが作られた多くの詩の中から生活協同組合についての詩を連載します。

山村瑞子さんの詩

七年目のわたしたち
—総代会によせて—

わたしたちが登ってきた
坂は長くてきつかった
気がつくつと
一つの峠

あすからはまた登りだけれど
きょうは
草の上に
足を投げ出して
ひといきつこう。

七年のあいだには
いろんなことがあったね
かすかすの失敗
じぐざくの石ころの道
背をむけて去っていった友だち
もういつペン手をつなげないだろうか
—忘れる日とありません—

ばかじゃあるまいか
ばかかもしれない
苦しまなかったといったら嘘になる
こんなことをしなくても
生きていけるのに
もっと要領よくやれないものか
でもわたしたちは
止めなかった
なぜ
なぜ
なぜ

とことんつまるところは
自分でやるしかない。

(一九七七年)

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはXで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事會事務局行き
210号(2020.6.22)